

家畜ビート単胚種 「モノバール」の上手な作り方 5ポイント

- ①播種量 単胚種子は小粒なので、播種量は少なくてもすむ。
 { 移植栽培 「モノバール」10a 当たり100g (ペーパーポット5冊, 約7,000本分)
 { 直播栽培 「モノバール」150~200g (圃場条件が悪い場合は300g)
- ②育苗 苗 モノバールは移植栽培で増収効果が高く、間引も不要。
 播種板 「モノバール」(単胚種子)専用の播種板を使う(当社で取扱っています)
 立枯病防除 覆土消毒の場合は、土壌30kgに対し、ペンタゲン粉剤(5%)75gとタチガレン粉剤(4%)75gをよく混合し覆土に用いる。
 覆土の厚さ 種子が小さいので覆土の厚さは4~5mmが良い。ペーパーポットの土詰めにはこの点に注意する。
 発芽まで 種子を播いた後、ポット6冊当たり60(程度)の水を数回に分けてたっぷりかける。温度は25℃を保つようにし、どんな場合でも30℃を絶対にこさないように。また夜間は10℃以下にならないよう、ビニールかポリで被覆する。
 育苗中期まで かん水は土の表面が乾き過ぎない程度とし、日中は20℃より上らないよう、夜間は10℃以下にならないよう注意し健苗を育てる。定植前は昼夜共、外気に充分ならし、早期定植にそなえる。
- ③肥培管理 病害虫の被害を回避するため連作圃場はさけ、腐熟堆肥4t、炭カル200kg、燐50kgを土改資材として投入する。家畜ビートは吸肥性が強いので基準施肥量はかならず施用する。下記参照。
- ④中耕・除草 除草剤と中耕を上手に組み合わせ、手間のかかるホー除草などをできるだけ省き増収を図る。
 《除草剤の使い方》

移植栽培	土壌混和処理	—定植—中耕—	エフタム粒剤 5kg/10a
	定植活着—雑草処理(発生初期)		ベタナール乳剤 500~600cc./水40~80ℓ

⑤病害虫防除 少ない農業で高い効果が期待できる予防及び早期防除に努めること

褐斑病	トップジンM水和剤	50g	水100ℓ/10a
	ダコニール	200	100
ヨトウム	ホスベル乳剤	100cc.	100ℓ
その他	ランネート水和剤	50~70	100

《家畜ビートの施肥基準》

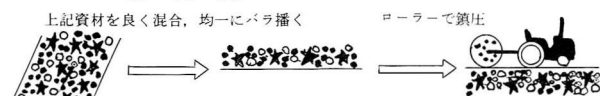
地帯	日収	標準量	窒素	リン酸	カリ
道央・道南 十勝・網走	8~10t	12~15	16~23	12~15	12~15
道東・道北	7~8t	11~15	16~23	12~15	12~15

除草剤利用 雪印改良紫丸かぶバラ播き栽培法

除草剤利用バラ播き栽培で除草も間引きも不要。
 約3カ月で7~8tの収穫が可能です。(早まき程多収)
 準備する資材(10a当たり)

- 種子(雪印改良紫丸かぶ50g)
- ★ 肥料(硫安40kg, 過石40kg, 硫加10kg)
- 除草剤(トレフェノサイド2.5%, 粒剤4kg)

播種法



※ロータリーで攪土のできないときは種子量は1/2程度にしてください。

